

研究テーマ	生活や社会との関わりを深める技術・家庭科教育
生活や社会との関わりを深める手立て	自分や家族の生活を点検し、生活と環境のかかわりについて考える活動を通して、環境に配慮した消費生活を工夫する実践力を身に付ける

第3学年 組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 題材名 環境に配慮した消費生活

2 題材の目標

- 環境に配慮した消費生活について関心をもって学習活動に取り組み、よりよい生活を実践しようとしている。（生活や技術への関心・意欲・態度）
- 環境に配慮した消費生活について課題を見つけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。（生活を工夫し創造する能力）
- 消費生活と環境とのかかわりについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。（生活や技術についての知識・理解）

3 題材について

(1) 題材観

中学校学習指導要領（平成 20 年 3 月）D（2）アでは、「自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できること」が指導事項として挙げられている。消費生活と環境とのかかわりについて関心と理解を深め、持続可能な社会構築のため、これからの生活を展望して自分や家族の生活を見直し、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できるようにすることをねらいとしている。

中学生の実態として、環境に関する言葉を耳にする機会が多くなり、環境に対して関心をもつ生徒が増えている。また、東日本大震災の影響により、節電や節水に対しても意識が大きく高まってきている。買い物に行くときにエコバッグを使うという家庭も多くなった。しかし、環境に関する言葉を知っているものの意味の理解が不十分なために、自分の生活での実践に結びつけることが難しい現状にあるとも言える。

そこで、環境に配慮した消費生活についての問題解決的な学習を通して、消費生活が環境に与える影響に気づき、循環型社会を目指した生活を工夫し、継続的な実践ができるようにすることをねらいとする。そして、環境や資源に配慮し、主体的に生きる消費者の育成をめざしていきたいと考え、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態

アンケートより、環境に対する知識（言葉）について、『エコロジー（エコ）』『3R』は、多くの生徒が知っていると考えている。近年、CMなどで『3R』などについて取り上げられることがあるためと考えられる。一方で、『循環型社会』や『グリーンコンシューマー』という言葉については意味を知らない生徒が多い。また、「環境に配慮した生活を工夫していますか」という質問については、『どちらかというといいえ』『いいえ』と答えた生徒が7割を超え、生活を工夫し、実践している生徒は少ない。

(3) 指導観

本題材では、『MY環境アクションプラン』作成とその実践を通して、自分の衣食住を中心とする実生活の中で環境に配慮した生活の工夫ができるように計画し、学習を進めていくこととした。実践プランの作成・実践・反省を通して、循環型社会を目指した生活の工夫という視点から、継続的な実践力を十分に身に付けられるように指導の工夫を図りたい。

本時では、自分の生活を見直し、生活を環境のかかわりにおける影響を考える活動を取り入れる。また、『3R』や『グリーンコンシューマー』といった、用語とその内容を理解できるようにする。家庭での調査活動も提案することで、具体的な実践計画の作成につなげたい。

4 学習計画（3時間扱い）

次	時	学 習 内 容	関意態	工・創	技能	知・理
1	1	環境に配慮した望ましい消費生活を考えよう（本時）	◎			○
	2	『MY環境アクションプラン』を立てよう		◎		
	3	『MY環境アクションプラン』の見直しをしよう	○	◎		

5 本時の学習

(1) 目 標

自分や家族の消費生活が環境に与える影響について関心をもち、環境に配慮した消費生活を実践しようとする。

(2) 準備・資料

- ・教科書 ・ワークシート（自己診断シート） ・写真（またはプロジェクターで映せるもの）
- ・キーワードカード

(3) 展 開 （・留意点 ◎生活や社会とのかかわりを深める手立て   評価 ）

学習内容及び活動	指導上の留意点と評価
1 自分の生活行動をチェックする。	・ワークシートを活用しながら自分自身の生活行動を振り返り、本時の学習への関心を高める。
2 本時の課題を知る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">環境に配慮した望ましい消費生活を考えよう</span>	・写真（電気をつけたまま、水を出したまま、あふれたごみ）を提示し、自分や家族の生活が環境に与える影響について気付くことができるようにする。
3 自分の生活が環境に与える影響について考える。	◎写真（生ごみ・ペットボトル・洋品店等）の変化を見せ、『リサイクル』などに気づくことができるようにする。 ◎教師側が事前に調べて準備した資料を提示しながら環境に与える問題の実態（おもに地域に関するもの）を説明することで、環境に配慮した生活の工夫への意欲の高揚を図る。
4 限りある資源の有効活用について知る。	・『グリーンコンシューマー』の具体例として、シャンプー（詰め替え用・新品）を用意して紹介し、商品の選択も環境への配慮につながることに気付くことができるようにする。また、『循環型社会』にもふれ、自分の生活行動が環境にも大きくかかわることに気付くことができるようにする。
5 本時のまとめをする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">予習の課題：身近な環境について調べ、家族や自分にできる環境に配慮した生活の工夫について調べる</span>	・ワークシート（ステップアップカード）に感想を書き、本時の学習内容を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">自分や家族の消費生活が環境に与える影響について関心をもち、環境に配慮した消費生活を実践しようとしている。 (関心・意欲・態度：観察・ワークシート)</div>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     ・自分が現在家でやっていること                      ・学校や家でできること                 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">自分や家族の消費生活が環境に与える影響について理解している。 (知識・理解：観察・ワークシート)</div>
	・教科書 P16～17などを参考にしながら課題について確認することで、次時の活動への関心を高められるようにする。インターネット、書籍、インタビュー等を調査方法として提示する。

研究テーマ	生活や社会との関わりを深める技術・家庭科教育
生活や社会との関わりを深める手立て	自分や家族の生活を点検し、生活と環境のかかわりについて考える活動を通して、環境に配慮した消費生活を工夫する実践力を身に付ける

第3学年 組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 題材名 環境に配慮した消費生活

2 題材の目標

- 環境に配慮した消費生活について関心をもって学習活動に取り組み、よりよい生活を実践しようとしている。  
(生活や技術への関心・意欲・態度)
- 環境に配慮した消費生活について課題を見つけ、その解決を目指して自分なりに工夫している。  
(生活を工夫し創造する能力)
- 消費生活と環境とのかかわりについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。  
(生活や技術についての知識・理解)

3 題材について

(1) 題材観

中学校学習指導要領（平成 20 年 3 月）D（2）アでは、「自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できること」が指導事項として挙げられている。消費生活と環境とのかかわりについて関心と理解を深め、持続可能な社会構築のため、これからの生活を展望して自分や家族の生活を見直し、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できるようにすることをねらいとしている。

中学生の実態として、環境に関する言葉を耳にする機会が多くなり、環境に対して関心をもつ生徒が増えている。また、東日本大震災の影響により、節電や節水に対しても意識が大きく高まってきている。買い物に行くときにエコバッグを使うという家庭も多くなった。しかし、環境に関する言葉を知っていてもその意味の理解が不十分なために、自分の生活での実践に結びつけることが難しい現状にあるとも言える。

そこで、環境に配慮した消費生活についての問題解決的な学習を通して、消費生活が環境に与える影響に気づき、循環型社会を目指した生活を工夫し、継続的な実践ができるようにすることをねらいとする。そして、環境や資源に配慮し、主体的に生きる消費者の育成をめざしていきたいと考え、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態

アンケートより、環境に対する知識（言葉）について、『エコロジー（エコ）』『3R』は、多くの生徒が知っているという回答がある。近年、CMなどで『3R』などについて取り上げられることがあるためと考えられる。一方で、『循環型社会』や『グリーンコンシューマー』という言葉については意味を知らない生徒が多い。また、「環境に配慮した生活を工夫していますか」という質問については、『どちらかというといいえ』『いいえ』と答えた生徒が7割を超え、生活を工夫し、実践している生徒は少ない。

(3) 指導観

本題材では、『MY環境アクションプラン』作成とその実践を通して、自分の衣食住を中心とする実生活の中で環境に配慮した生活の工夫ができるように計画し、学習を進めていくこととした。実践プランの作成・実践・反省を通して、循環型社会を目指した生活の工夫という視点から、継続的な実践力を十分に身に付けられるように指導の工夫を図りたい。

本時では、第1時で学んだ環境への配慮に関わる言葉の意味を踏まえながら、具体的に実践計画の作成を行う。自分の生活を振り返り、問題点や工夫点を挙げながら、家庭や学校でできる実践計画を立てる。自らの生活を環境とのかかわりにおける影響を考える視点で、活動が進められるようにしたい。

4 学習計画（3時間扱い）

次	時	学 習 内 容	関意態	工・創	技能	知・理
1	1	環境に配慮した望ましい消費生活を考えよう	◎			○
	2	『MY環境アクションプラン』を作成しよう（本時）		◎		
	3	『MY環境アクションプラン』の見直しをしよう	○	◎		

5 本時の学習

(1) 目 標

自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した消費生活について考えたり、工夫したりすることができる。

(2) 準備・資料

- ・教科書 ・ワークシート ・写真 ・掲示資料 ・キーワードカード
- ・話し合いの進め方（掲示資料）

(3) 展 開

（・留意点 ◎生活や社会とのかかわりを深める手立て                      評価）

学習内容及び活動	指導上の留意点と評価
<p>1 本時の課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">『MY環境アクションプラン』を立てよう</div> <p>2 宿題（課題）で各自が調べてきた工夫について話し合う。</p> <p>(1) 各グループで工夫を説明する。</p> <p>(2) 各グループで最もよいと思う工夫を紹介する。</p> <p style="text-align: center;">節水・節電・ゴミ削減</p> <p>3 『MY環境アクションプラン』を作成し、発表する。</p>	<p>◎資料を提示するとともに前時の内容にふれることで、自分や家族の生活と環境とのかかわりを意識し、本時の活動への意欲を高められるようにする。</p> <p>・掲示資料を活用しながら話し合いの進め方を示すことで、グループでの話し合い活動がスムーズに進むようにする。</p> <p>・グループの人数は3～4人とすることで、自分が調べてきたことを話しやすいように配慮する。</p> <p>・自分が調べたことや家族で実践していることをグループ内で紹介し合うことで、環境に配慮した生活の工夫への意識の高揚を図る。</p> <p>◎グループごとに具体的な工夫例を紹介し、全体で共有できるようにする。</p> <p>◎自分や家族の生活を振り返りながら、プランを立てるように助言する。</p> <p>・プラン作りに戸惑っている生徒には、教科書 P16～17の内容や教師が準備した資料（資料コーナー）を参考にしよう助言することで、自分の力に合ったプランが立てられるようにする。</p> <p>・環境に配慮した生活の工夫は、家庭のみならず学校でも実践できるものがあるという点に気付くことができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">                 自分や家族の消費生活を点検し、環境に配慮した生活について考えたり、工夫したりしている。                  （工夫・創造：話し合い活動、ワークシート）             </div> <p>・ワークシート（ステップアップカード）に感想を書き、本時の学習内容を振り返る。</p> <p>・課題について内容と方法の確認をし、次時の学習活動への関心を高められるようにする。</p>

4 本時のまとめをし、次時について知る。

課題：家でプランを実践する

（夏休みに実践または、1週間程度実践）

研究テーマ	生活や社会との関わりを深める技術・家庭教育
生活や社会との関わりを深める手立て	自分や家族の生活を点検し、生活と環境のかかわりについて考える活動を通して、環境に配慮した消費生活を工夫する実践力を身に付ける

第3学年 組 技術・家庭科(家庭分野)学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 題材名 環境に配慮した消費生活

2 題材の目標

- 環境に配慮した消費生活について関心をもって学習活動に取り組み、よりよい生活を実践しようとしている。(生活や技術への関心・意欲・態度)
- 環境に配慮した消費生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。(生活を工夫し創造する能力)
- 消費生活と環境とのかかわりについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。(生活や技術についての知識・理解)

3 題材について

(1) 題材観

中学校学習指導要領(平成20年3月)D(2)アでは、「自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できること」が指導事項として挙げられている。消費生活と環境とのかかわりについて関心と理解を深め、持続可能な社会構築のため、これからの生活を展望して自分や家族の生活を見直し、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践できるようにすることをねらいとしている。

中学生の実態として、環境に関する言葉を耳にする機会が多くなり、環境に対して関心をもつ生徒が増えてきている。また、東日本大震災の影響により、節電や節水に対しても意識が大きく高まってきている。買い物に行くときにエコバッグを使うという家庭も多くなった。しかし、環境に関する言葉を知っていてもその意味の理解が不十分なために、自分の生活での実践に結びつけることが難しい現状にあるとも言える。

そこで、環境に配慮した消費生活についての問題解決的な学習を通して、消費生活が環境に与える影響に気づき、循環型社会を目指した生活を工夫し、継続的な実践ができるようにすることをねらいとする。そして、環境や資源に配慮し、主体的に生きる消費者の育成をめざしていきたいと考え、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態

アンケートより、環境に対する知識(言葉)について、『エコロジー(エコ)』『3R』は、多くの生徒が知っていると答えている。近年、CMなどで『3R』などについて取り上げられることがあるためと考えられる。一方で、『循環型社会』や『グリーンコンシューマー』という言葉については意味を知らない生徒が多い。また、「環境に配慮した生活を工夫していますか」という質問については、『どちらかというといいえ』『いいえ』と答えた生徒が7割を超え、生活を工夫し、実践している生徒は少ない。

(3) 指導観

本題材では、『MY環境アクションプラン』作成とその実践を通して、自分の衣食住を中心とする実生活の中で環境に配慮した生活の工夫ができるように計画し、学習を進めていくこととした。実践プランの作成・実践・反省を通して、循環型社会を目指した生活の工夫という視点から、継続的な実践力を十分に身に付けられるように指導の工夫を図りたい。

本時では、各自が考えた実践計画に沿った実践報告会を行う。成果と課題について報告・発表を行うことを通して、改善するための新たなプランを考えられるようにする。計画・実践・評価・改善のサイクルを意識しながら、実生活の中で環境に配慮した生活を積極的に意識し、継続的に実践できる力を、生徒一人一人が身に付けられるよう支援する。

4 学習計画(3時間扱い)

次	時	学 習 内 容	関意態	工・創	技能	知・理
1	1	環境に配慮した望ましい消費生活を考えよう	◎			○
	2	『MY環境アクションプラン』を作成しよう		◎		
	3	『MY環境アクションプラン』の見直しをしよう(本時)	○	◎		

5 本時の学習

(1) 目標

環境に配慮した消費生活について、実践の成果と課題を踏まえ、継続に向けた工夫の方法を考えることができる。

(2) 準備・資料

- ・教科書 ・ワークシート ・写真(またはプロジェクターで映せるもの) ・掲示資料
- ・キーワードカード ・話し合いの進め方(掲示資料)

(3) 展 開

(・留意点 ◎生活や社会とのかかわりを深める手立て   評価 )

学習内容及び活動	指導上の留意点と評価
<p>1 本時の課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">『MYアクションプラン』を見直そう</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーワードカードや写真を使い、学習の確認をする。</li> <li>◎資料(教科書P16~17参考)を提示することで、自分や家族の生活と環境とのかかわりを意識できるようにする。</li> </ul>
<p>2 各自の実践の成果と課題について発表をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いの進め方を全体で細かく示しながら確認することにより、活動がスムーズに進むようにする。</li> <li>・グループは3~4人にする。(第2時と同じグループ)</li> <li>・1人ずつ発表をすることで、お互いの実践のよさを認め合えるようにする。</li> <li>・実践に対しての意見交換や相互にアドバイスをすることで、自分のプランを見直せるように配慮する。</li> <li>・友人の考えをワークシートに赤で記入し、参考にできるよう助言する。</li> </ul>
<p>3 『MY環境アクションプラン』の見直しをする。</p> <p>(1) よかった点や改善すべき点をそれぞれ整理する。</p> <p>(2) 継続できそうなプランを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎自分や友人のプランの中から継続できる内容に着目することで、継続実践への手立てとなるようにする。</li> <li>・プラン作りに戸惑っている生徒には、友人からのアドバイスも参考になることを伝える。また、新しく加えるばかりでなく、継続したり一部変更したりしてもよいことを助言する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     プランの実践の成果について振り返りを行い、実践プランを改善するための話し合い活動に積極的に参加している。                      (関心・意欲・態度:観察,ワークシート)                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     環境に配慮した消費生活について、実践の成果を踏まえ、継続に向けた工夫を考えることができる。                      (工夫・創造:話し合い活動,ワークシート)                 </div>
<p>4 本時のまとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステップアップカードの記入をし、本時の学習内容を振り返る。</li> <li>・改善した『MY環境アクションプラン』を継続実践できるよう、今後3回の点検を設けることを伝える。</li> </ul>

研究テーマ	生活や社会との関わりを深める技術・家庭科教育
生活や社会との関わりを深める 手立て	消費トラブルについてのロールプレイングを取り入れた言語活動の充実を図る。

第 2 学年 4 組 技術・家庭科学習指導案

指導者 ○○ ○○

G T (消費生活相談員) ○○ ○○

1 題材名 消費者トラブルを解決する方法を知ろう

2 題材の目標

- 自分や家族の消費生活について関心を持ち、よりよい生活を実践しようとしている。  
(生活や技術への関心・意欲・態度)
- 家庭生活と消費について課題を見付け、その解決方法を目指して工夫することができる。  
(生活を工夫し創造する能力)
- 物資・サービスの選択、購入及び活用について、必要な情報を収集・整理することができる。  
(生活の技能)
- 家庭生活と消費について、物資・サービスの選択及び活用に関する基礎的な知識を身に付けることができる。  
(生活や技術についての知識・理解)

3 題材について

(1) 題材観

現代の日本では、物や情報の多様化から、社会環境が大きく変化している。その中で、消費者として正しい情報を持ち、行動していく力が必要とされる場面が普通の生活の中で多く発生している。このような社会において、主体的に生きる消費者を育む視点から、中学生においても、消費者トラブルに関する知識だけでなく、かしこい消費者としての適切な対応の仕方を考えることは重要である。この題材を通して、家庭生活と消費について考えを深め、豊かな家庭生活への実践の手がかりとする事で、よりよい生活を主体的に工夫できる能力や態度を養っていくものとする。

(2) 生徒の実態

身近な消費生活と環境についてのアンケート (男子15名 女子20名 計35名)

1 今までに商品の購入やサービスの利用で失敗したことはありますか。	はい15名 いいえ20名
2 1で「ある」と答えた人は、その後どのような行動をとりましたか。	何もしなかった7名 家の人に相談した7名 店に連絡をした1名
3 あなたの身近で、消費に関するトラブルがあったことはありますか。	ある8名 ない27名
4 3で「ある」と答えた人は、どんなトラブルがありましたか。 (記述式)	・携帯電話の高額料金の請求・高額な問題集の購入 ・店員に勧められて無駄な物を買ってしまった ・買ったはずなのに商品が入っていなかった

本校の校区内は、ショッピングセンターが点在しており、インターネットによる通信販売を利用したことがある生徒も多く、消費行動の経験は豊富である。しかし、経験が豊富にだけに、今までに商品の購入やサービスの利用で失敗をしたことがある生徒も多い。失敗と考える内容を見ると、消費者としての自覚や消費生活についての知識が不十分であることが分かる。

(3) 指導観

「身近な消費生活」は、消費に関する実践的・体験的な学習活動を通して、消費生活についての基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、消費者としての自覚を高め、身近な消費生活の視点から持続可能な社会を展望して、生活を主体的に営む能力と態度を育てることをねらいとしている。そこで、言語活動を取り入れた実践的・体験的な活動を重視し、正しい判断や行動ができるようにしたいと考えた。本時では、消費者トラブルについてのロールプレイングを活用し、かしこい消費者になるための心構えを自分の言葉でまとめることで、消費者としての自覚を高めていきたい。

4 学習計画 (8時間扱い)

次時	学習内容	関意態	工・創	技能	知・理
1 1	自分や家族の身近な消費生活を振り返ろう	◎			
2 2	生活の場にあった商品を選択しよう			◎	○
3 1	販売方法と支払い方法を知ろう				◎
4 1	契約について理解し、消費者の基本的な権利と責任について考えよう	○			◎
3	消費者トラブルを解決する方法を知ろう (本時は2時)	○	○		◎

5 本時の学習

(1) 目標

ロールプレイングの台本作りを通して、消費者トラブルを解決する方法を理解することができる。

(2) 準備・資料 ・教科書 ・学習シート ・掲示用カード ・グループ活動用ホワイトボード  
・ホワイトボードペン ・消費生活センターからの資料

(3) 展開 (留意点 ◎生活や社会との関わりを深める手立て

G T ゲストティーチャー ( ) 評価

学習内容及び活動	指導上の留意点と評価
1 本時の課題をつかむ。 消費者トラブルを解決する方法を知ろう。	・本時は、G Tとして消費生活センターの方から専門的なアドバイスを受けることを伝え、課題に対する興味・関心を高める。
2 前時の学習を振り返り、契約の意味を確認し、消費者トラブルの内容について理解する。 ・訪問販売 ・キャッチセールス ・アポイントメントセールス ・マルチ・マルチまがい商法 ・催眠商法	・契約は約束と違って、法律で保護されるもので、販売者・消費者それぞれが責任を負うものだという点を確認し、台本作成の際に意識できるように確認しておく。 ・販売者は、商品を売るためにあらゆる工夫をしていることを確認し、商品を売ること自体が悪いのではなく、その売り方に問題がある場合があることを押さえる。
3 消費者トラブルのロールプレイングを通じて、適切な対応の仕方を考える。 (1) 教師と生徒でキャッチセールスの販売者と消費者を演じ、販売者の手口や消費者の態度について考える。 (2) ロールプレイングのような場面において、もし自分が消費者の立場だったらどう行動していたかを考える。 (3) G Tから、消費者トラブルにあった場合の適切な対応と、かしこい消費者としての心構えについて聞く。	・話し合いの際、グループのメンバーを販売者と消費者の2つの立場に分け、言動を分析させる。 ◎販売者の巧妙な手口と、消費者側の曖昧な言動の危険性について気付いた点を意見交換し、消費者としての適切な対応の仕方について新たな気付きを各自がもてるようにする。 ◎ロールプレイング中の消費者の立場を自分に置き換えることによって、普段の生活の中で、生徒自身が物資・サービスを購入する主体になっていることを認識させたい。 ・消費者トラブルを解決するためには、正しい知識や情報の収集、心構えが必要であることを生徒に伝える。(GT)
4 身近で起こりうる事例をもとに、消費トラブルの台本を考える。 (1) 台本作成の柱となる6つの項目を考える。 ①消費者トラブルの種類 ②いつ(状況・時刻) ③どこで(場所) ④何を(商品や契約内容) ⑤どのようにして(勧誘方法) ⑥どうなったか(消費者の反応) (2) 台本の作成をする。	・消費生活センターの冊子等を台本の作成の参考にさせる。 ・台本の構成として、①～⑥のポイントを最初に話し合いによって明確にし、ホワイトボードに記入することでグループで内容を共有させる。 ・台本作成の6つの項目がまとまらない班に対して、G Tは各班にアドバイスをし、消費者からよく相談を受ける内容を紹介する。(GT) ・台本の作成を通して、消費者が断り切れなくなる心理の表現の仕方や、人の心理をついた誘い文句を、教師と生徒の対話の中から導き出していきたい。(教師) ・各グループでの活動を回りながら、消費者トラブルが次々と進化し、消費者を脅かす存在であることを意識させる。(GT)
5 自己評価を行い、次時の学習内容を確認する。	・本時の生徒の頑張りを賞賛し、学習した事への充実感や満足感を味わえるようにし、次時の台本完成に向けて意欲を高める。

ロールプレイングの台本作りを通して、消費者トラブルを解決する方法を理解している。  
(知識・理解:学習シート)